

長谷川 望牧師

- * 「主のおおいなる恐ろしい日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす」（マラキ4：5）バプテスマのヨハネはこのエリヤであると主イエスも認めておられる。彼はイエスを「神の子羊」と呼び、救い主であることを証した。彼はイエスを証しするために来たのであって、自分はイエスの靴のひもを解く値打ちもない者であると謙遜し、キリストが来られる前に人々に悔い改めを説き、主の道にしっかりと向ける働きをした。また、指導者たちの傲慢や社会の不正や悪を非難、批判したので、王に首をはねられることになった。
- * バプテスマのヨハネはヨルダン川で、水で洗礼を受けた。自分の中にあるあらゆる罪や悪い思いから完全にきよめられたいと願っていた者たちは、悔い改めてバプテスマを受けた。しかし、それでも、ヨハネの水によるバプテスマだけでは完全な罪のきよめはできなかった。「私もこの方を知りませんでした。しかし、水でバプテスマを受けさせるために私を遣わされた方が、私に言われました。『御霊がある方の上にご下って、その上にとどまられるのがあなたに見えたなら、その方こそ、聖霊によってバプテスマを受ける方である。』（ヨハネ1：33）イエスは無限の御霊を持つ方であり、この方からバプテスマを受けた者も御霊を与えられる。御霊がイエス・キリストの贖いのわざをとおして罪からのきよめを完全に成してくださるのである。今は、「父と子と聖霊の御名によって」バプテスマを受けている。キリスト教の神は三位一体であるからである。
- * 「上から来る方は、すべてのものの上におられ、地から出る者は地に属し、地のことばを話す。天から来る方は、すべてのものの上におられる。」（ヨハネ3：31）「上から来る方」は神なので「神の言葉」を話す。私たちは地上の人間なので、「地の言葉」を話す。それ故本来は「神の言葉」は私たちには理解できないのである。しかし、神であるキリストが人となって来られ、神の言葉を話されたので、私たちは徐々に神の言葉が理解できるようになっていくのである。「神の言葉」は「神のみこころ」と置き換えてもよい。神の言葉に接し続けると、最初わからなかった神のみこころもわかるようになるのである。神のみこころを知るためには忍耐強く求め続けなければならない。「そのあかしを受け入れた者は、神は真実であるということに確認の印を押したのである。」（ヨハネ3：33）神の言葉が全く理解できなければ、イエスを受け入れることもできない。しかし、理解でき、受け入れることができたならば、神は偽りのない方であることをはっきりと証しすることができるのである。